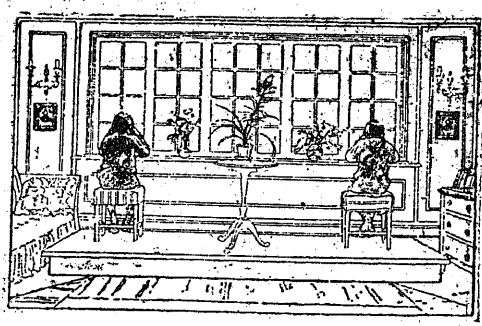


新らしき



新らしきは外になく内にある。物になく心にある。年々歳々相同じ日の光に、けふは初日の新らしきがある。きのふも汲んだ井戸の水に、けさ若水の新らしきがある。

不斷に心の新らしきを以て、物の新らしきを感じ得るものは幸である。

その目に光りの新らしきを見、その耳に音の新らしきを聞いて、其の世界は常に潑刺たる新味に充ちて居る。うひ／＼しい子供の心は即ち此の

最幸なるものである。

陳り易く、滯り易き我等の心を奮ひ起して、子供と共に常に心の新らしき人でなくてはならぬ。

陳りし心ほど子供に遠きものはない。そは別の世界を見るからである。